

大崎市民病院医療事故の公表について（包括的公表）

令和6年 4月 1日～令和6年 9月30日に発生した医療事故は次のとおりです。

レベル3 b または 4 a に該当する件数

3 b	濃厚な処置や治療を要した（バイタルサインの高度変化，入院日数の延期，外来患者に入院，手術，骨折）	9件
4 a	永続的な障害や後遺症が残ったが，有意な機能障害や美容上の問題を伴わない	0件

このうち，他の医療機関の事故防止につながると考える事例を，下記のとおり掲載します。

No.	概要	原因	改善・対応策
1	肺癌入院患者が歩行時にふらつきがあり，トイレ歩行時はナースコールを使用するよう説明したが，使用せずに自力歩行により転倒し，左頬骨を骨折した。	<ul style="list-style-type: none"> ・ADLが低下していたが，セルフケア意欲が強くナースコールを活用していなかった。 ・入院時ふらつきがあり，移動に介助が必要な状態であったが，転倒予防策の取り組みを行っていなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ナースコールの活用を患者へ説明後，説明内容を理解しているか把握する。 ・離床センサーのモード設定を行う。
2	入院中に病室のトイレ前で転倒している所を発見された。転倒当日の頭部CT，胸部X-Pを施行し，転倒後の新たな所見は認めなかったが，翌日本人から右母指の疼痛の訴えあり。 CT，X-P撮影にて右母指末節骨骨折が判明した。	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレ歩行を見守っていたが，転倒時にはナースコールを活用することなく自力でトイレ歩行を行った。 ・アルコール多飲歴があった。 ・離脱症状発現予防のためセルシンの内服を開始したが，リスク評価が不十分だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・転倒・転落のリスク評価を適切に行う。 ・転倒・転落リスクの高い患者にはナースコールの活用を説明するとともに，活用状況も把握し対応する。